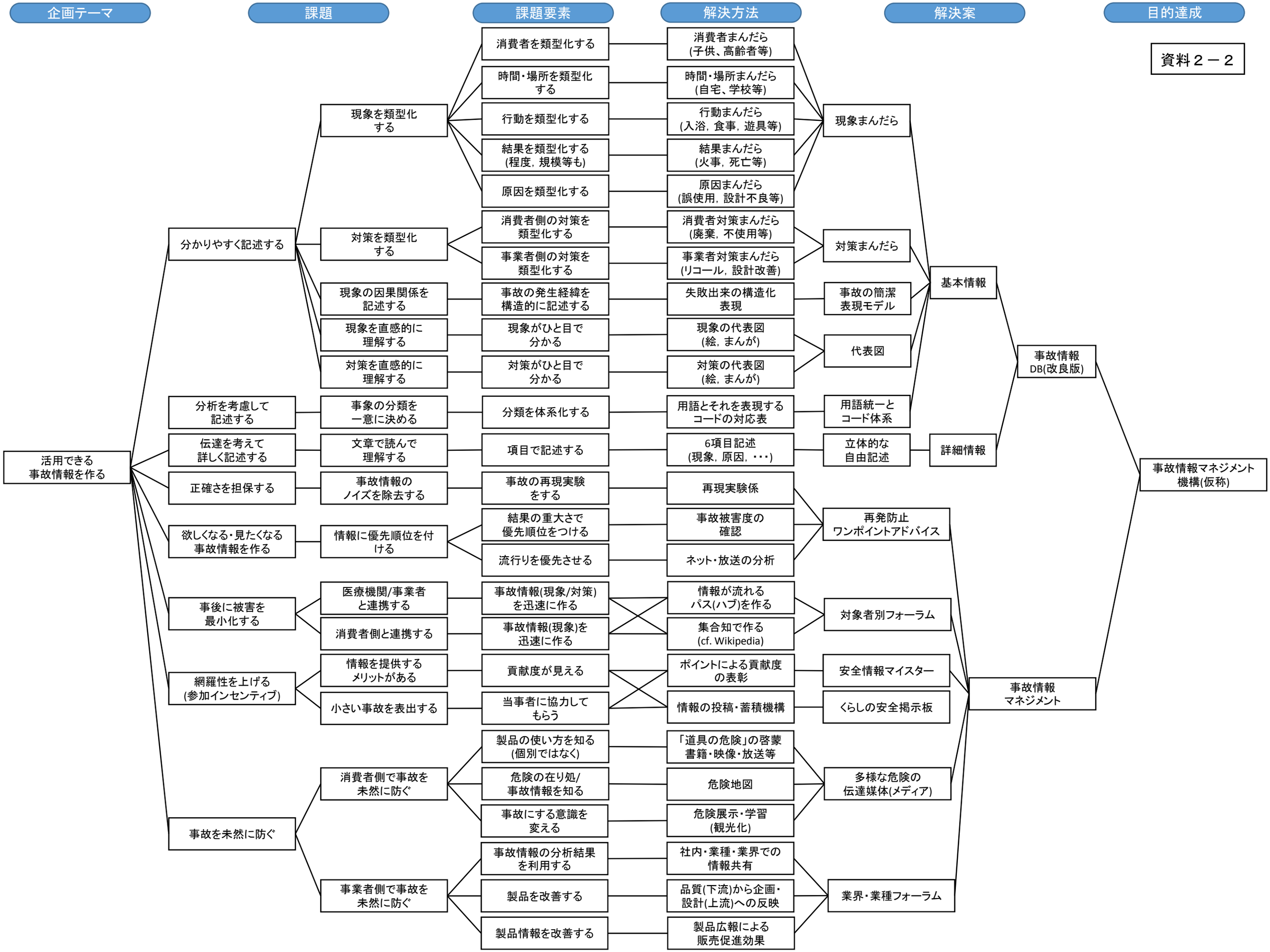
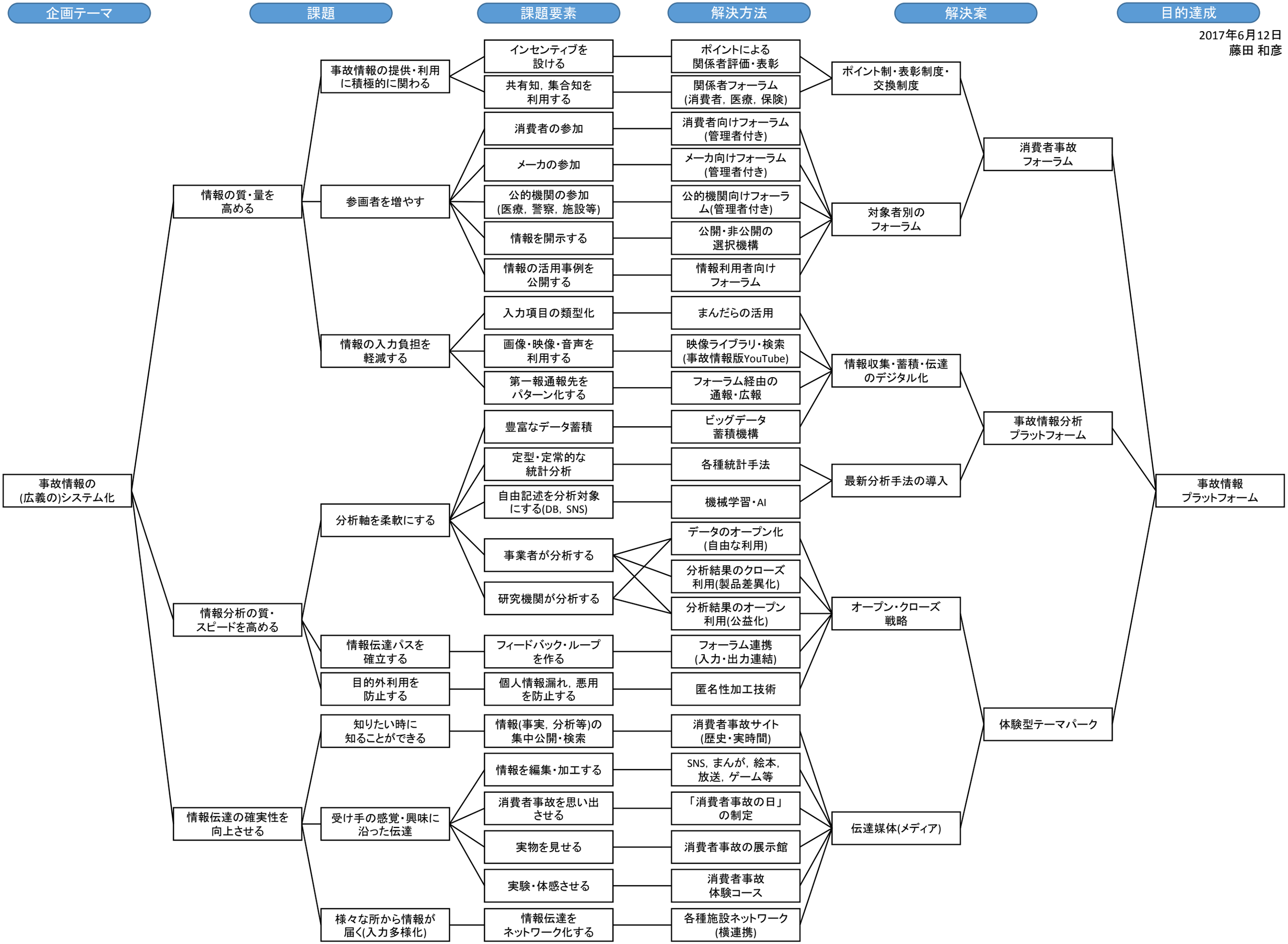
資料２－２


企画テーマ
課題
課題要素
解決方法
解決案
目的達成
活用できる
事故情報を作る
分かりやすく記述する
分析を考慮して
記述する
伝達を考えて
詳しく記述する
正確さを担保する
欲しくなる・見たくなる
事故情報を作る
事後に被害を
最小化する
網羅性を上げる
(参加インセンティブ)
事故を未然に防ぐ
現象を類型化
する
対策を類型化
する
現象の因果関係を
記述する
現象を直感的に
理解する
対策を直感的に
理解する
事象の分類を
一意に決める
文章で読んで
理解する
事故情報の
ノイズを除去する
情報に優先順位を付
ける
医療機関/事業者
と連携する
消費者側と連携する
情報を提供する
メリットがある
小さい事故を表出する
消費者側で事故を
未然に防ぐ
事業者側で事故を
未然に防ぐ
消費者を類型化する
時間・場所を類型化
する
行動を類型化する
結果を類型化する
(程度，規模等も)
原因を類型化する
消費者側の対策を
類型化する
事業者側の対策を
類型化する
事故の発生経緯を
構造的に記述する
現象がひと目で
分かる
対策がひと目で
分かる
分類を体系化する
項目で記述する
事故の再現実験
をする
結果の重大さで
優先順位をつける
流行りを優先させる
事故情報(現象/対策)
を迅速に作る
事故情報(現象)を
迅速に作る
貢献度が見える
当事者に協力して
もらう
製品の使い方を知る
(個別ではなく)
危険の在り処/
事故情報を知る
事故にする意識を
変える
事故情報の分析結果
を利用する
製品を改善する
製品情報を改善する
消費者まんだら
(子供、高齢者等)
時間・場所まんだら
(自宅、学校等)
行動まんだら
(入浴，食事，遊具等)
結果まんだら
(火事，死亡等)
原因まんだら
(誤使用，設計不良等)
消費者対策まんだら
(廃棄，不使用等)
事業者対策まんだら
(リコール，設計改善)
失敗出来の構造化
表現
現象の代表図
(絵，まんが)
対策の代表図
(絵，まんが)
用語とそれを表現する
コードの対応表
6項目記述
(現象，原因，・・・)
再現実験係
事故被害度の
確認
ネット・放送の分析
情報が流れる
パス(ハブ)を作る
集合知で作る
(cf. Wikipedia)
ポイントによる貢献度
の表彰
情報の投稿・蓄積機構
「道具の危険」の啓蒙
書籍・映像・放送等
危険地図
危険展示・学習
(観光化)
社内・業種・業界での
情報共有
品質(下流)から企画・
設計(上流)への反映
製品広報による
販売促進効果
現象まんだら
対策まんだら
事故の簡潔
表現モデル
代表図
用語統一と
コード体系
立体的な
自由記述
再発防止
ワンポイントアドバイス
対象者別フォーラム
安全情報マイスター
くらしの安全掲示板
多様な危険の
伝達媒体(メディア)
業界・業種フォーラム
基本情報
詳細情報
事故情報
マネジメント
事故情報
DB(改良版)
事故情報マネジメント
機構(仮称)

2017年6月12日
藤田 和彦